令和８年度静岡県森林･林業技術研究発表会
発表スライド集１

目次

No.1　オクシズ材で静岡を元気に!!…… 1

No.2　LiDAR 測量を用いた治山測量の展望 …… 24

No.3　雨垂地区森林整備ワークショップの成果とこれから…… 33

No.4　小山町山地強靭化総合対策協議会活動…… 39

No.5　伊豆地域におけるしいたけ栽培…… 46

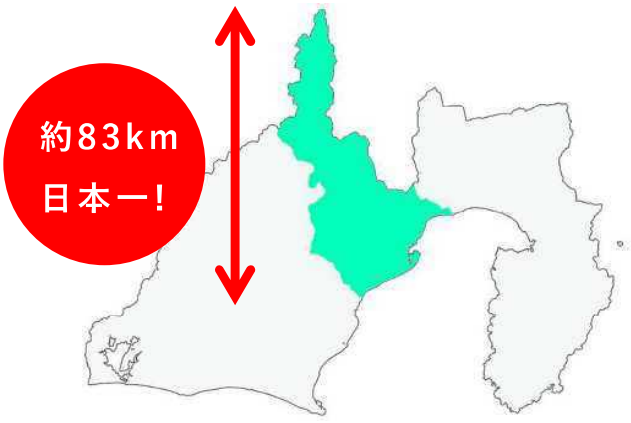


オクシズ材で、静岡を元気に!!

静岡市林業研究会

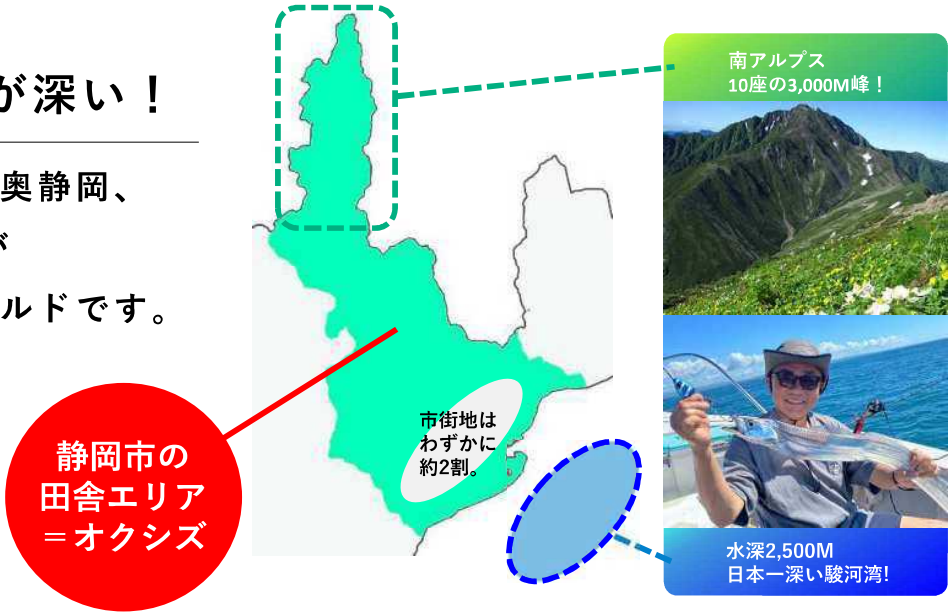
地域の概要

南北に "なが一い”静岡市。



静岡は、奥が深い！

魅力いっぱいの奥静岡、
「オクシズ」が
私たちのフィールドです。



オクシズ とは



オクシズ とは

生い立ち

2003年
静岡市と清水市が合併。
中山間地振興課を設立し、
「奥大井、奥藁科、奥清水、安倍奥」
エリアをまとめて
「オクシズ」と命名。



オクシズ とは

森林

静岡市の
森林面積10.7万ha
森林率76％
人工林率44％
良質な檜と杉が豊富に
育っています。



オクシズ とは

歴史

【登呂遺跡】
縄文時代より杉を沢山活用。
【天然林施業】
1300年代～はじまる
静岡浅間神社再建
【人工林施業】
1700年代～植林が拡大
徳川家康による駿府城築城など



地域の概要

静岡市林業研究会

春　夏　秋　冬



お茶の生産量日本第２位！



ワサビ発祥の地！

農業の休閑期に
林業を行うスタイル



林業は伐り旬に行う。

しずまえ SHIZUMAE ×オクシズ



新鮮なシラス



日本唯一のサクラエビ

深海2,500Mの駿河湾
海の幸豊富な「しずまえ」。



しずまえ×オクシズで静岡を元気に！

課題

静岡市は、人口67万人の政令指定都市！

▼

政令指定都市で一番少ない・・・
人口流出が止まらない。

大きな課題
WORST
20位

課題

静岡市林業研究会

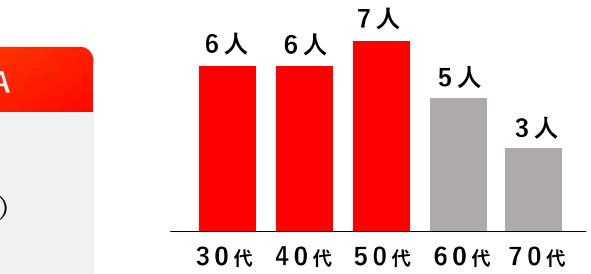
静岡で働きたい、
静岡に住みたい、
静岡が好き！
そう思えるような街づくりが
切実に求められています!!



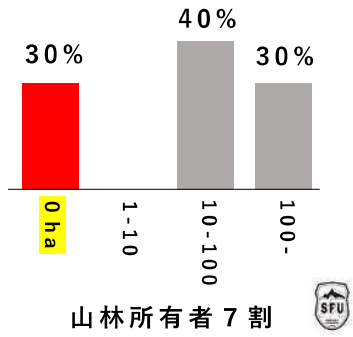
静岡市林研の概要

静岡市林業研究会DATA

・会員数32人
・年齢32歳～76歳（平均52歳）
・構成／林業家・林業事業体
を中心に、木育グループ、
デザイン会社、建材屋、
重機取扱業者、博士、
料理人、釣り好き!?などなど
多様な業種に拡大中！







山林所有者７割

活動概要



活動の３本柱

1. オクシズ材のブランディング
2. オクシズ材の活用促進
3. 木育等による普及活動



1.オクシズ材のブランディング

BEFORE

農業

観光

林業

移住
促進

静岡市の中山間地域

奥大井・安部奥・奥藁科・奥清水・・・

バラバラ
縦割りの行政

→ 過疎化の一途・・

活動概要　1/3本柱

全部
まとめる
エリア戦略



中山間地振興課の
独立したオフィス

NOW

静岡市（中山間地振興課）

官民連携
↓
強い絆

オクシズ

観光　農業　移住促進

林業＝土台

静岡市林業研究会

静岡木材業協同組合（木協）

脱・縦割りの
メリット絶大！

予算取り

スピード感

推進力

ALL オクシズで
PRが加速！

オクシズ材指定の案件受注

10年がかりの
ブランディング









参加者
4,000人の
人気企画！











オクシズ
認知度
100％!?

HP・SNS　　イベント　　DTP

活動概要　1 / 3 本柱

全国初の
林家グループ
SGEC
認証取得！

オクシズ材の生産・供給





森林認証材　14,000㎥／2024年度 (静岡市産材のうち100％！)

オクシズ材　30,000㎥／2024年度 (静岡市産材のうち約60％以上！)

活動概要 2/3本柱

静岡市林業研究会



2.オクシズ材の活用促進

活動概要 2/3本柱

静岡市林業研究会



川上～川下・流域の連携

スムーズな
サプライチェーン

林 研 → 市 場 → 木 協 → 工務店 → 市民

オクシズ
ネット

家 具





活動概要 2/3本柱

静岡市林業研究会

オクシズ材が基軸に！

市民

オクシズ
ネット

工務店

林 研
オクシズ材

オクシズ材をきっかけに
流域との様々な連携が！

木 協

市 場

家 具

活動概要 2/3本柱

オクシズネット × 静岡市林業研究会



特殊材の需要に応える！

10社の製材所と
３社の流通・加工業
による水平連携チーム。
オクシズ材流通窓口！
公共工事のコントラク
ト案件などを受託。
林研と連携し、原木調
達から特殊材に対応。

活動概要 2/3本柱

公共事業の材・工分離発注



静岡市の公共事業

ゼネコン ← 静岡市

静岡市 → オクシズ材 分離発注

信頼構築



３者立ち会い全量検査

オクシズネット
（製材の水平連携）

特殊材調達のため
長い準備期間を確保



林研 → オクシズネット

原木調達の管理

オクシズ材納入事例

自分たちの
木が活かされて
嬉しい！



SGECプロジェクト認証を目指して！

現在進行中！
小中一貫校の
立替えプロジェクト



パース：アセッド建築

林研 & 製材所による木材調整MTG

活動概要 2/3本柱

戸建て住宅／柱100本プレゼント事業

＼ マイホーム を建てたい！ ／

1,700棟 /10年！

静岡市

木協

柱プレゼント

施主

静岡市内 の業者を指定





PR事業

林研

原木調達 の管理

地元工務店 D

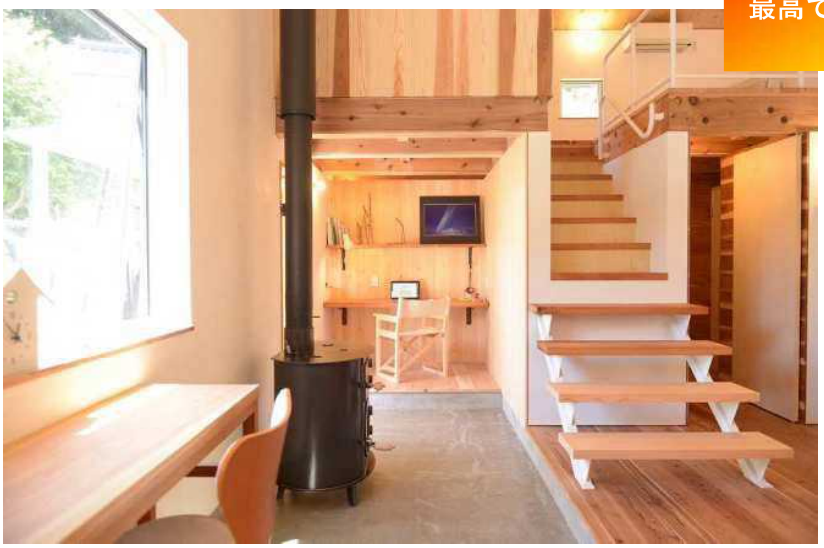
A B C

関連業者まで還元

経済効果 300億円 /10年！

＊静岡大学調べ

木の家は やっぱり 最高ですね







活動概要 2/3本柱

ヨキカグプロジェクト × 静岡市林業研究会



しずおか
広葉樹の
可能性！

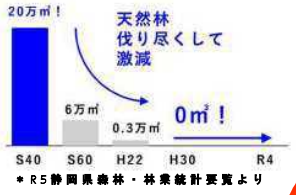
静岡の貴重な**広葉樹を家具作りに活かす**プロジェクト。静岡は家具産地であり林業地。支障木を一本一本手渡しして**「使われない木々を活かす」**活動です。



使われない広葉樹を、活かしてくれー!!



伐り尽くされた広葉樹



様々な
プロダクト
が誕生！

静岡市・県

PR ↑ ↓ 受託

林　研

特殊伐
採支障木

ヨキカグ
（川中のハブ）

丸太・板

家具工房

チップにしていた
貴重な広葉樹



一本一本
手渡し
小さな流通

PR ↓

エンドユーザー

販売 ↗↙

JAPAN WOOD DESIGN AWARD

GOOD DESIGN SHIZUOKA

手渡しの小さな流通

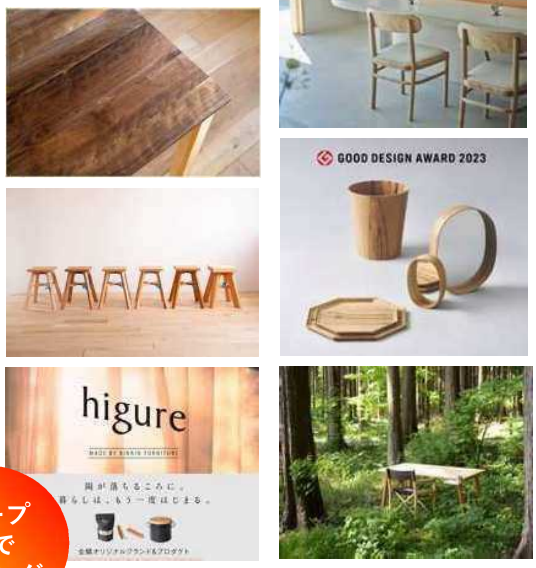
チップと仕分け、一本一本使い手に届ける



雑木・その他広葉樹



グループLINEでマッチング



様々なプロダクトに！

静岡市林業研究会

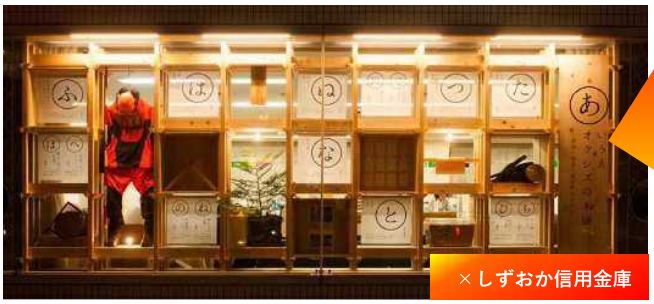


林研から出材された木々が活かされ始めています。

林研×地域企業

静岡市林業研究会





地元企業
とPR企画
地域貢献や
SDGs

×しずおか信用金庫





×静岡伊勢丹

首都圏での展示会

静岡市林業研究会







×東急ハンズ新宿店

東京へ
オクシズ材
をPR！





×リビングデザインセンターOZONE



3.木育等の普及活動

日々の草の根的な活動



林業体験イベント



森からのLIVE配信授業

活動概要 3/3本柱

森林の
魅力を
全力PR!!















街中へ積極的に進出！「木が好きになりますように♪」

今後の課題

1. 補助金がなくても売れるブランドに！
2. 森林環境譲与税の活用方法模索中！
3. SNSなど時代にあった発信に取り組もう！

活動のキーポイント

静岡市林業研究会

活動の鍵は、、、





市民

オクシズ
ネット

工務店



林研

**多様な
キーパーソン
が繋ぐ！**

木協





教育

家具



活動のキーポイント

静岡市林業研究会

会員が増えている理由

リンケンに在籍するメリット

No.1

「時代にあった技術や情報、
魅力的な人と出会えるから」

好循環！

活動

人

「もしも、リンケンが無かったら・・」



2013.11 初めて市場を訪れた時の発表者

12年前、林業の世界に
一人飛び込んだ自分。

▼

今でも一人っぼっちで
山の中だったかもしれません。

最高の仲間と共に、これからも一生「山」で生きるため。
リンケンを通じて学び続けたいと心から思います。



会社の仲間たち

まとめ　　静岡市林業研究会

「地域の木」には「地域」を元気にする力がある！

オクシズ材で、静岡を元気に!!



ご清聴ありがとうございました。



LiDAR測量を用いた治山測量の展望

志太榛原農林事務所　治山課　中嶋優介

近年の状況

山地災害の同時多発化

（例）・令和４年台風15号
・能登半島地震
・令和８年熊本地震など・・・

山地災害調査の能率化

静岡だと南海トラフ巨大地震・・・

ICT測量とは？

ICT測量が鍵！

ICT測量

・・・情報通信技術を活用して、３次元データを効率的に取得・解析する測量手法

（例）写真測量、レーザー測量

LiDAR測量とは？

LiDAR測量

・・・レーザー光を対象物に照射し、それが反射して戻ってくるまでの時間を測定することで、3D空間を精密に計測する技術



ドローン



ハンディ・バックパック型



車載・航空

材料と方法

使用した機材とソフト



【マプリィLA01-2】

・多機能ハンディLiDAR計測機
・測距範囲：２～200 m
・照射角度：70°×75°

【mapryWindows版】
・点群データの閲覧・編集・解析

【CloudCompare】
・座標データの出力

材料と方法

測量した現場



藤枝市瀬戸ノ谷諸窪沢



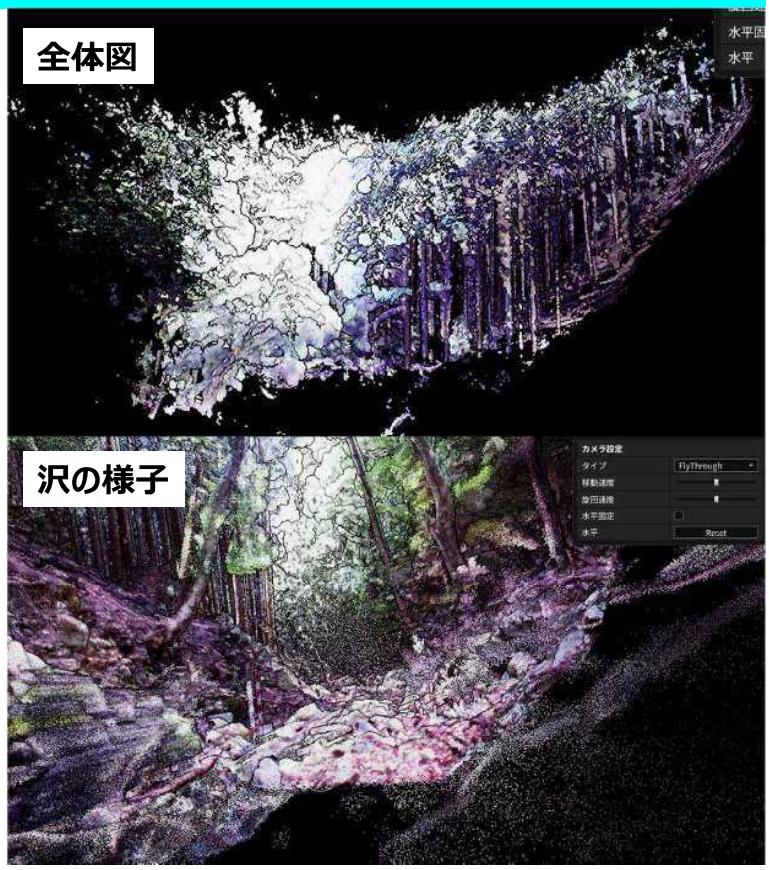
撮影の様子

材料と方法

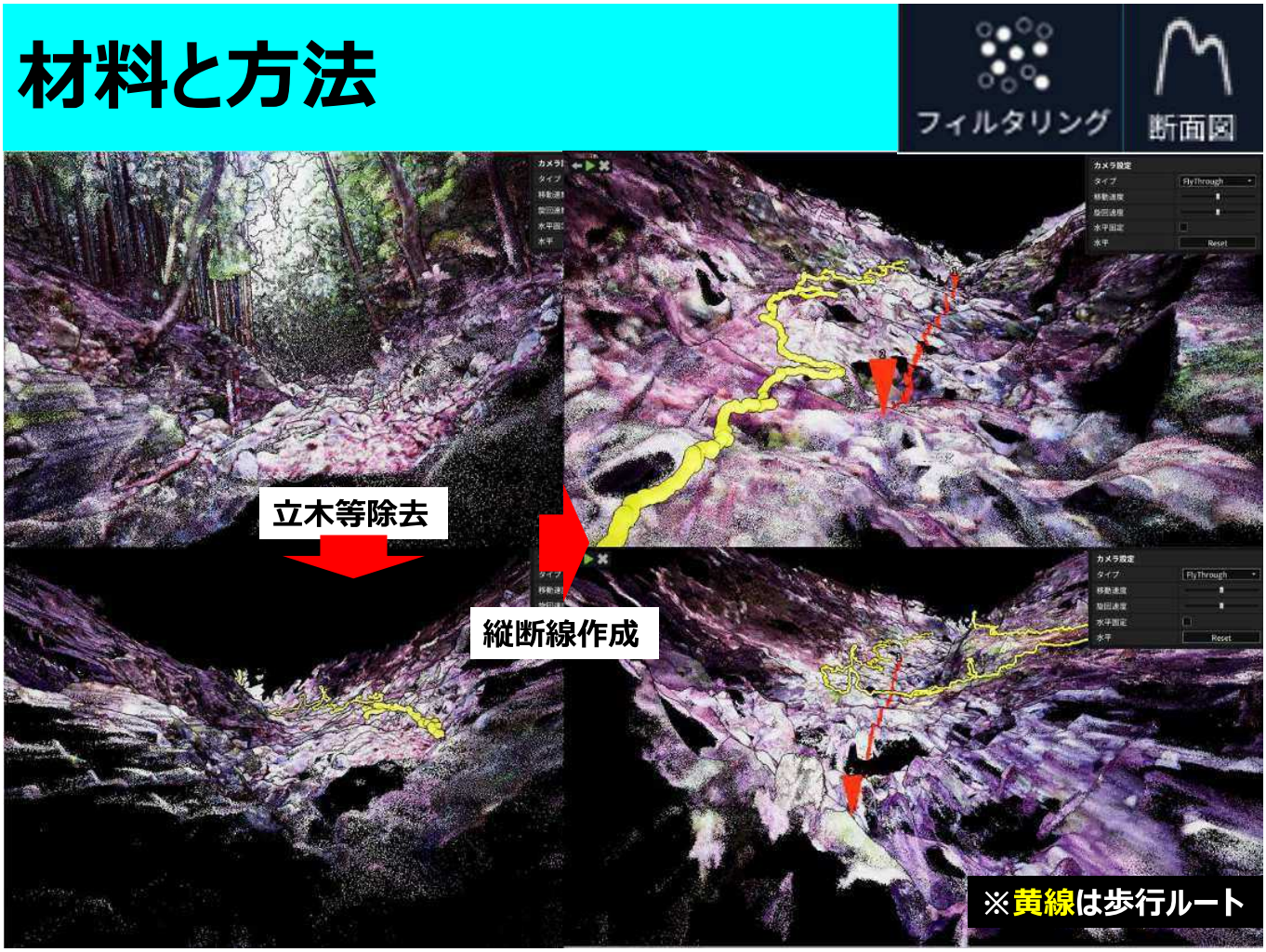
解析の方法



藤枝市瀬戸ノ谷諸窪沢

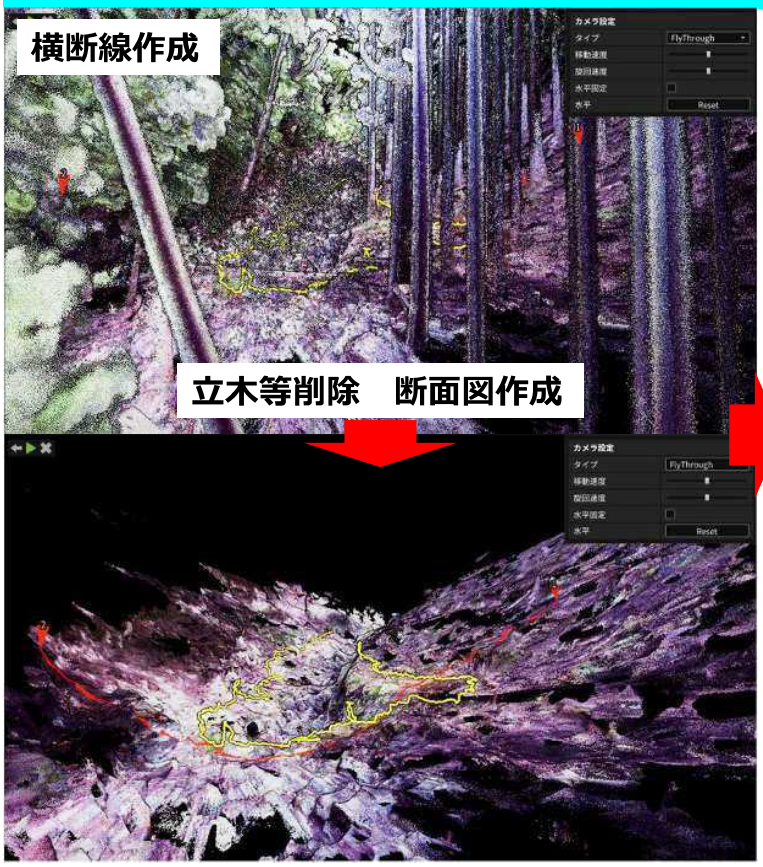


材料と方法



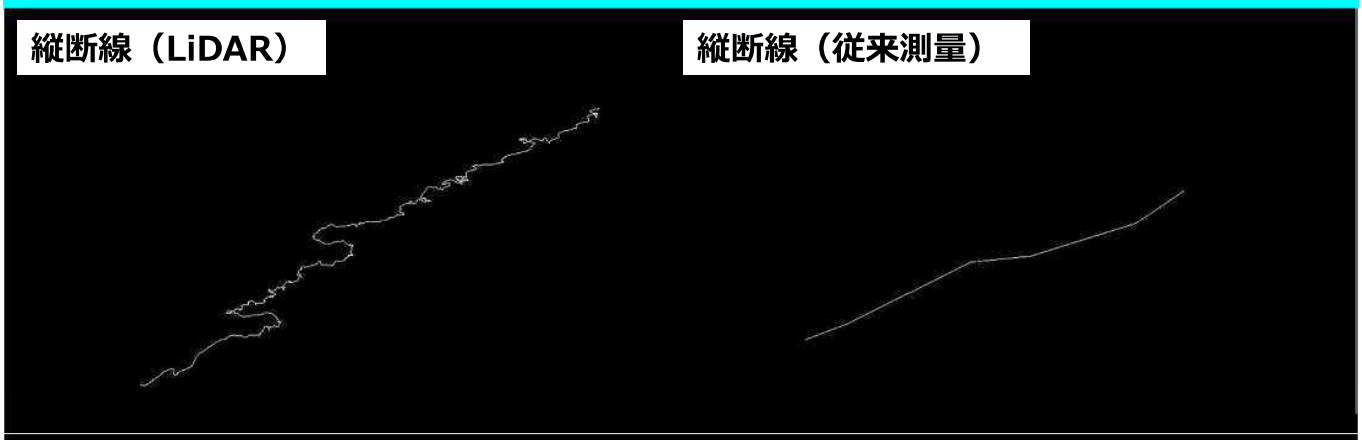
材料と方法

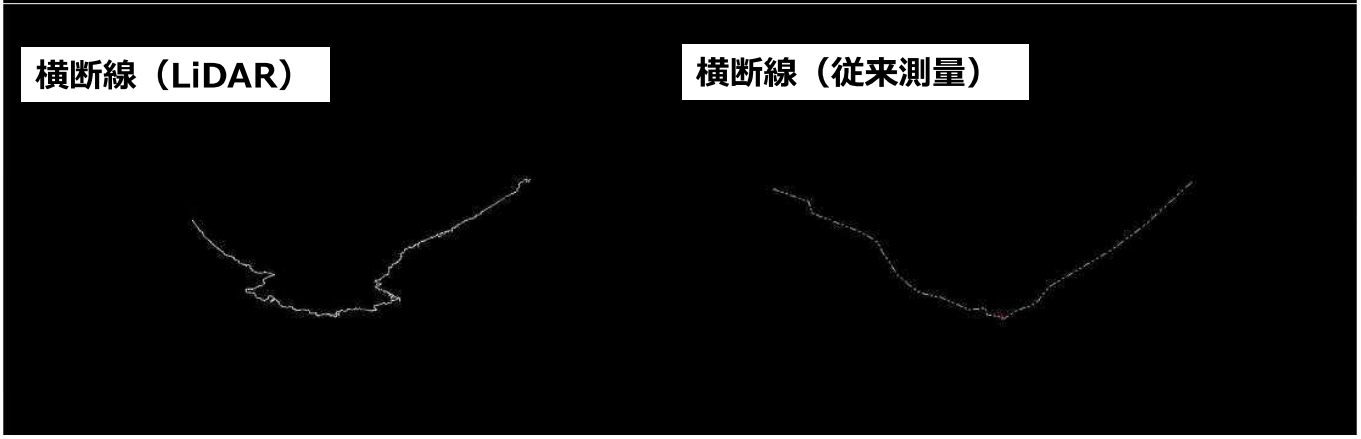
フィルタリング　断面図



座標データ　CAD

測量の結果





考察

○誰でも素早くできそう！
→能率化につながる！

従来測量		ICT測量
３人以上	→	１人

測定時間		測定時間
半日	→	20分

考察

mapry 2.0

○周辺の立木や流木の状況も同時に取得可能
→解析で数量を算出可能！



支障木数量



不安定土砂･倒木数量

迅速な予算把握に！

今後の展望



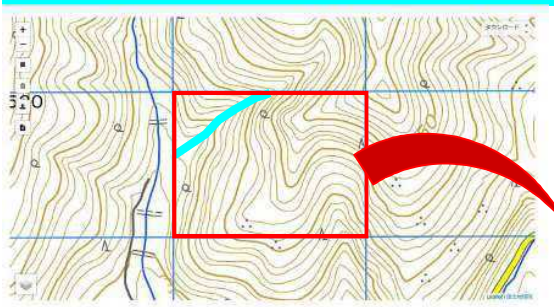
○過去のデータと比較可能！（差分解析）
→渓流内の堆砂の動的な過程が分かる
→水の流れが読めるかも？

今後の展望

○静岡県は県土全域をほぼ３次元点群データとして取得している!



今後の展望



○災害発生のメカニズムが
可視化できるかも・・・



今後の展望

フィルタリング

○現状、転石や草本が除外しきれない・・・



○AIは日々進歩している・・・
→より正確な地表面の判読が可能に！

御清聴ありがとうございました

静岡県森林・林業技術研究発表会

地域と共に描く「災害に強い森林」

― 雨垂（うたり）地区 森林整備ワークショップの実践と評価 ―

磐田市 農林水産課　鈴木　開斗

静岡県山林協会 森林整備アドバイザー　佐野　新太郎

1 背景と課題　― 要望・財源・制約の三すくみ ―

背景

令和4～6年の豪雨

3年連続で被災。雨垂川・上野部川流域で倒木が川をふさぎ、濁流が集落へ。

自治会からの要望書

自治会連合会豊岡支部から市へ（令和6年）。地域の側から持ち込まれた課題。

課題

行政の限界

山林は個人の財産。法的制約があり、所有者の同意なしに市は手を出せない。

小規模所有者が多い

権利が入り組み、集積が困難。全員の合意形成が極めて難しい。





800件超

市内の住宅被害。豊岡中学校体育館は床上3cmの浸水。

要望はある。財源もある。それでも、すぐには手が出せない。

2 ワークショップの開催と当初の狙い

「地域と共に」将来の森林像を考える

住民・森林所有者・市・大学・地元企業　全6回／約5か月／参加者 約30名

掲げた目標 ①

地域が目指す
森林像の合意形成

掲げた目標 ②

実現可能な
整備方針の決定

資料には書かなかった狙い

関係者間の
信頼関係の構築

「合意形成」をどう定義したか

全員が同じ意見になることではない。立場の違いは残したまま、課題と方向を共有し、
次の一歩を一緒に選べる状態をつくること。

市への不満、所有者の警戒。この距離を縮めないかぎり、どんな整備計画をつくっても動かない

3 全6回の設計と展開　— 何をやったのか —

回	段階	日程	テーマ	組み込んだ仕掛け
1	知る	10/9	**現状の理解と課題の共有**	森林の多面的機能の講義＋グループワーク
2	知る	11/1	**現地踏査**	実際に山へ。消えた道・倒木を全員で確認
3	整理する	11/27	**課題の抽出**	静岡県立農林環境専門職大学の講義／ヤマハ発動機のレーザー計測データ・CS立体図
4	描く	12/18	**望ましい森林像を描く**	グループごとにキャッチコピーを作成
5	落とし込む	1/15	**理想の森林像の検討**	獣害・低コスト工法・予算・要望書の出し方を先に提示
6	共有する	2/5	**まとめ（一般公開）**	提案書の発表＋有識者による講評

情報提供と話し合いを交互に置く

材料がなければ意見は出ない。説明ばかりでは受け身になる。

前回の意見を必ず次回資料に反映

発言が次につながると見えれば、「言っても無駄」は薄れる。

4 担当者の苦労と工夫　— 記録に残っていること —

苦労した点	講じた打ち手
第1回の空気が冷たい 森林所有者から「誰が森林整備に係る費用を負担するのか」。負担増への警戒感。	**反論しないと決めた** 制度を説明して反論すれば「行政 対 住民」になる。不満も含め、課題を全部付箋に書き出してもらうことに徹した。
議論が噛み合わない 原因は対立ではなく語義のズレ。「整備」の意味が人によって違った（機能回復／遊歩道／利用形態）。	**配布資料の構成を組み替えた** 「課題一覧 → 森林整備の必要性（防災軸） → 整備後の未来像」の順に再構成し、バラバラだった「整備」を防災という共通軸にそろえた。
信頼が生まれると期待が膨らむ 第3回時点の記録：「市に対する期待感も高まっており……引き算の部分のコントロールが難しくなることが予想される」	**理想を絞らせず、現実を先に渡した** 第5回で低コスト工法・予算・要望書の出し方を提示。引き算を行政がするのではなく、参加者自身が実現可能性で判断できる状態にした。

そして、いちばん難しかったこと

行政が、あらかじめ答えを持っていかないこと。

市が案を示せば会議は早く進む。
しかしその瞬間、それは「市が決めたこと」になる。

5 ワークショップの成果　— 4グループからの提案 —

	提案された森林像	提案の内容	アドバイザーの講評
A	**家族で安心して歩ける彩り豊かな森**	案内板の設置／桜・ツツジなど花の咲く木の植樹	桜並木は難しいが点在は可能。いろはもみじの方が実現性が高い
B	**自然に配慮した保水力が高い森林**	防災機能の向上／伐採材の活用／子どもが楽しめる明るい森	伐った木を板にする道具が約10万円で入手可能
C	**公園化しつつ防災機能を持つ森**	コンクリートを減らし自然に溶け込む防災公園／ジャカゴ	自然石積みの護岸も選択肢。スポットで500万円程度
D	**森の恵みを体験できる森**	きのこ栽培／ハイキングコース／森から収益を得る	きのこ栽培は実現可能。原木となるクヌギの調達も可能

否定ではなく、実現の条件を示す講評だった。

行政が想定していたもの
中心に「災害に強い森林」を置いた、流域全体の広域整備

≠

実際に出てきた提案
特定の場所の活用に寄っている
＝ 当初の狙いとは、ずれがある

しかし、これを失敗だとは考えていない。散策路・紅葉・きのこ。具体的な風景こそが、「自分が関われる森」を考える入口になった。

6 森林整備方針の策定へ　— 本当の成果物 —

個別の要望にその都度対応するだけでは、事業を選ぶ基準が担当者の経験や感覚に左右される。
譲与税が恒久的な財源となり、提案も多様になる中で、市としての共通の判断軸が必要になった。

課題の把握 ▶ 整理・分析 ▶ 優先順位の設定 ▶ 事業選択・実施

方針の目的

市が実施する事業が、思いつきや場当たり的なものではなく、「検討の積み重ねの結果として行っている」と説明できる内容にすること。

森林環境譲与税の用途

森林整備／木材利用／環境教育／普及啓発　など



雨垂地区をモデル地区として実施。令和8年度に方針策定。
令和9年度以降は今後検討。

直接の成果物は提案書。しかし行政にとっての本当の成果物は、この「方針」そのもの。

評価の視点　— 話者交代：森林整備アドバイザー —

この5か月で、
参加された方々がどう変わったか。
その一点です。





各提案の内容のレベルを評価したいのではありません。

開催支援という立場で全6回に伴走。市の職員でもなく、
地域の住民でもない、第三者の位置から。

森林整備アドバイザー　佐野　新太郎

7 参加者の変容 ①　— 記録に残る3つの観測点 —

第 1 回

警 戒

森林所有者から「誰が費用を負担するのか」。関心は「市が何をしてくれるか」に向いていた。

第 2 回

緊張の緩和

現地踏査の後、事務局の記録に「参加者の表情は明るかった」「前回よりは前向きな意見」。

第 5 回

自発的な行動

誰にも頼まれていないのに、周辺の山林を歩いて調査し、その結果を皆の前で報告した。

第5回の前に — 記録に残る自主踏査

5.4	3	224
km	時間35分	m（累計の登り）

半日がかり。誰の依頼もなく、自分の時間と足で。

会議で意見を言うだけなら、まだ参加者。
自分の足で現場を確かめに行ったとき、その人は当事者に変わっている。

8 参加者の変容 ②　— 何が、それを変えたのか —

順序の設計　1

理想から入らなかった

「なぜやるのか」→「現状はどうか」→「課題は何か」。理想を聞いたのは4回目。理想から始めれば、根拠のない要望を並べる場になる。

可視化の技術　2

全員が同じものを見られる状態に

レーザー計測・CS立体図・生成AI画像。技術の披露ではない。抽象的な議論は声の大きい人に流れる。共通の図があれば、誰でも指をさして話せる。

答えを持ち込まない忍耐　3

行政が結論を用意しなかった

外から見ていて何度も「市が案を出せば早いのに」と思った。しかしそうしていたら、第5回の自主的な踏査は起きていない。

この三つは、どれか一つが欠けても成立しなかったと考えています。

9 残された課題と、他地域への示唆

課題は、正直に三点

1
提案が特定の場所の活用に寄り、
市域全体の防災との接続が未整理

2
対象はほぼ民有林。実行には
所有者の確認と権利調整が必要

3
合意できたのは参加した方々の間。
不参加の所有者との調整はこれから

それでも、他地域への示唆

約259ha

静岡県「森の力再生事業」による磐田市内の
整備面積（平成18年～令和6年）

**これからの森林整備は、
「これまで手を出せなかった民有林」が
相手になる。**

森林整備は、木を切る前に、人が変わる必要がある。

雨垂地区で起きたのは、その順番の証明だったと考えています。

小山町山地強靭化
総合対策協議会活動



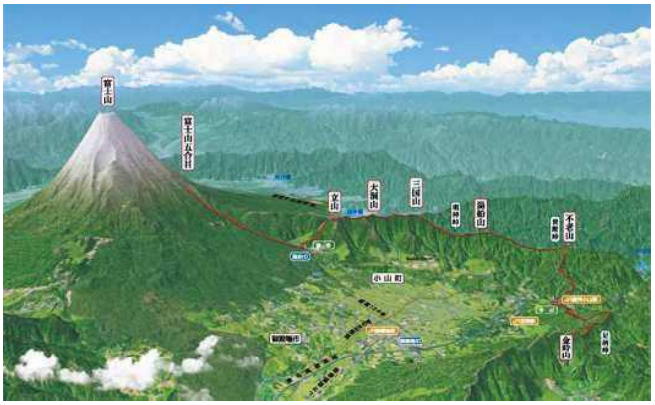
林業振興課　　田代治久
山内勇樹

Oyama-Town
小山町

令和８年９月４日

小山町の紹介

〇静岡県北東部に位置し、神奈川県・山梨県と接し、富士山を頂点とした富士外輪 状の三国山系、丹沢山地、金時山や足柄峠を含む箱根外輪山に囲まれ東西に長く伸びている。
〇町は、成美・明倫・足柄・北郷・須走の５地域からなる。金太郎誕生の地。





面 積：136 ㎢　（13,574ha）内森林面積は9,088 ha（67%）
標 高：236m～3,776 m（富士山頂）
人 口：16,481 人(令和８年8月1日現在)

災害復旧の状況

【平成２２年９月８日　台風９号】

野沢川の氾濫により、下野沢橋の落橋や六合橋付近の護岸の決壊、須川養鱒場などが破壊された。柳島地区の町道足柄三保線が崩落し、孤立集落が発生するなど甚大な被害を受けた。

【 気象データ　１０時に時間雨量１１０mm、１６時に時間雨量１２０mm 】



下野沢橋 崩落







町道足柄三保線崩落





小山町の土壌の特徴

スコリア（岩滓）とは
　玄武岩質マグマが噴火の際に発泡して多孔質になったもの



静岡県小山町でのスコリア被害

・1707年富士山の宝永噴火により大量のスコリアが堆積
・平成22年（2010年）の台風9号で住宅38棟が全半壊・主要道路の通行止め、山地崩壊多数
　↓
・この台風をきっかけにまとまった降雨のたびに大量のスコリアが流出







スコリア土壌におけるガリー浸食

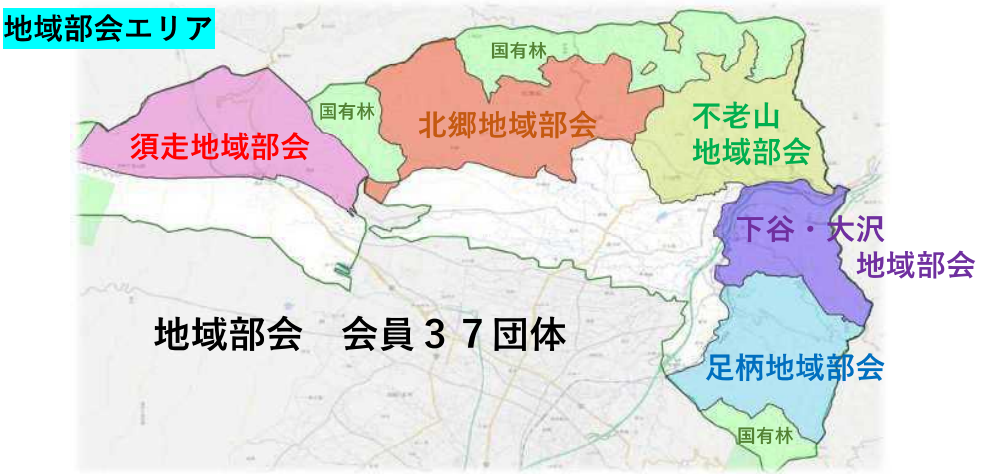


小山町山地強靭化対策協議会について

背景　平成22年の台風9号による災害発生以降、スコリアを主体とする土壌に起因した山腹崩壊や土砂流出等の被害が相次いでおり、山地災害からの復旧や予防対策、森林整備の推進が急務。

目的　森林に起因する災害の発生防止や被害の軽減に向け、行政、森林所有者等の関係団体が情報を共有し、連携して対策を進めるため「小山町山地強靭化総合対策協議会」を設立。

活動体制　協議会は、町内を５つの地域に分けて部会を設置し、地域の森林の状況や災害リスクを共有するとともに、森林保全活動などを通じて、地域と行政が連携した山地災害の発生防止・被害軽減に取組む。



地域部会の活動

①山地災害を防ぐ取り組み
▶初期段階の崩壊を手当てし崩壊拡大防止
▶施工体験による意識の醸成



②森林整備に関する情報提供
▶自分たちの山を守る知識の習得



③森林施業の安全教育
▶所有者の施業に対する労働災害防止



【山地災害を防ぐ取組】
1　土のう設置工（崩壊法面侵食対策）

対策前



荒廃した法面の侵食が進行

対策後（土のうの設置）







崩壊法面に土のうを設置し、浸食の拡大を抑制



■ 荒廃法面に土のうを設置し土砂の流出を抑制
■ 土のうの材料としてスコリアと固化材を空練りした資材とすることで、自然固化する構造体となる。

【山地災害を防ぐ取り組み】

2　木　柵　工　（土砂流出対策）

対策前



荒廃した法面の侵食が進行

対策後（木柵・土のうの設置）







崩壊法面に木柵（互い違いに）を設置し、
土砂の移動を抑えながら植生の回復を促す

対策のポイント

■土のうによる崩壊防止対策が困難な中規模の崩壊箇所において、土留をしつつ雨水の流下速度を抑えるため木柵工を設置。

■土砂発生源となる崩壊地に木柵工を設置することで、スコリアの表層移動を分散して、土砂流出を抑制しつつ植生復元を図る。

【山地災害を防ぐ取組】

3　山腹水路工（発達したガリーの侵食防止対策）

対策前



発達したガリーに、雨水の流下が集中し、浸食の拡大が進行

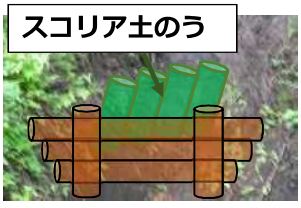
対策後（木柵・土嚢の設置）







木柵とスコリア土のうにより、雨水の流速を緩和し、侵食の拡大防止



対策のポイント

■ 調達可能な資材を用いる。

■ 発達したガリーの流下位置に木柵と土のうを設置

■ 雨水のエネルギーを抑え、土砂の流出・侵食を防止

【山地災害を防ぐ取組】

4　植林体験（林地保全）

- 植林及び獣害防止対策を実施
- 緑化による土砂流出の防止
- 早生樹による更新









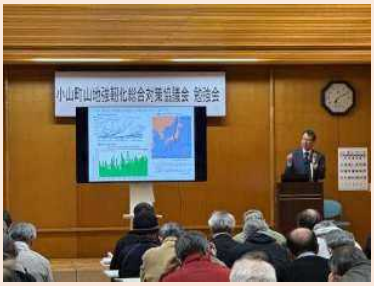




10

【森林整備に関する情報提供】

森林保全 の勉強会





林業関係民間施設視察研修



【森林施業の安全教育】

刈払機取扱作業者安全衛生教育



伐木等業務従事者特別教育





取組の成果

行政と森林所有者の**協働**による山地災害防止

- 森林所有者の森林保全に対する意識の醸成
- 森林が持つ多面的機能の回復
- 山地災害の被害軽減と未然防止
- 林業労働災害の防止



平成29年3月15日
「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靭化大賞)2017表彰式」
地方自治体部門　金賞



ご清聴ありがとうございました



伊豆地域における
しいたけ栽培



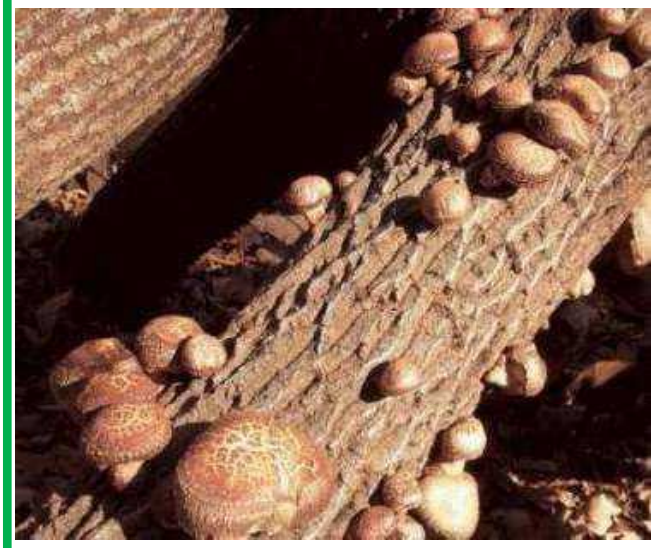
静岡県東部農林事務所
森林整備課　技師　木本　昂汰

目次

1.しいたけ栽培の種類
2.原木栽培について
3.伊豆地域でのしいたけ栽培
4.しいたけ栽培の現状と課題
5.これまでの取組と結果
6.今後の取組

１.しいたけ栽培の種類

原木栽培



菌床栽培



3

１（１）原木栽培と菌床栽培

原木栽培



・原木を使って森林の中で育てる。
・菌を付けてから収穫まで
　約20か月（１年半）かかる。
・しっかりした食感が特徴。

菌床栽培



・木のくずを固めた菌床を使って、
　部屋の中で育てる。
・菌を付けてから収穫まで、
　約3ヵ月。
・柔らかい食感。

4

2.原木栽培について



- クヌギ等広葉樹の原木に種駒を打ち込み、しいたけを発生させる
- 収穫できるのは植菌から2夏越えた秋頃
  (菌床栽培は約3か月)
- ホダ木から3年ほど発生する

5

2（1）植菌（接種・駒打ち）



菌種	森290号	菌興240号
性質	木駒 中低温性 春秋型 9下旬～6上旬発生	成型駒 中低温性 春秋型 10～4月発生

- 品種によって発生時期や生育環境が異なる。
- ほだ場の環境や収穫時期などにより品種を選択

6

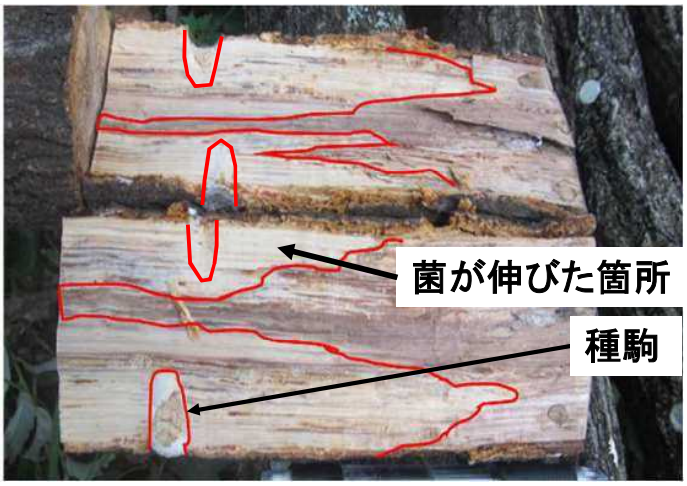
2（2）仮伏せ（しいたけ菌を生長させる）

菌が生長しやすいようにホダ木を寝かせる





⇐　ジメジメしすぎないように、
ホダ木をていねいに並べる。



2（3）しいたけの収穫

しいたけが生えてくる時期になったら、
収穫しやすいように並べる。





8

2（4）しいたけの乾燥



乾燥機



乾しいたけ

2（4）しいたけの乾燥

乾しいたけは健康面でも優れている

品目		食物繊維（100gあたり）	ビタミンD（100gあたり）
生しいたけ	菌床栽培	4.9g	0.3g
生しいたけ	原木栽培	5.5g	0.4g
乾しいたけ		46.7g	17.0g

文部科学省　日本食品標準成分表（八訂）増補2023年より引用

２（５）乾しいたけの種類



11

３.伊豆地域でのしいたけ栽培

（１）伊豆地域の歴史
（２）伊豆地域の地形や気候
（３）しいたけ栽培発祥の地

12

３（１）伊豆地域の歴史～原点は炭焼きの山～





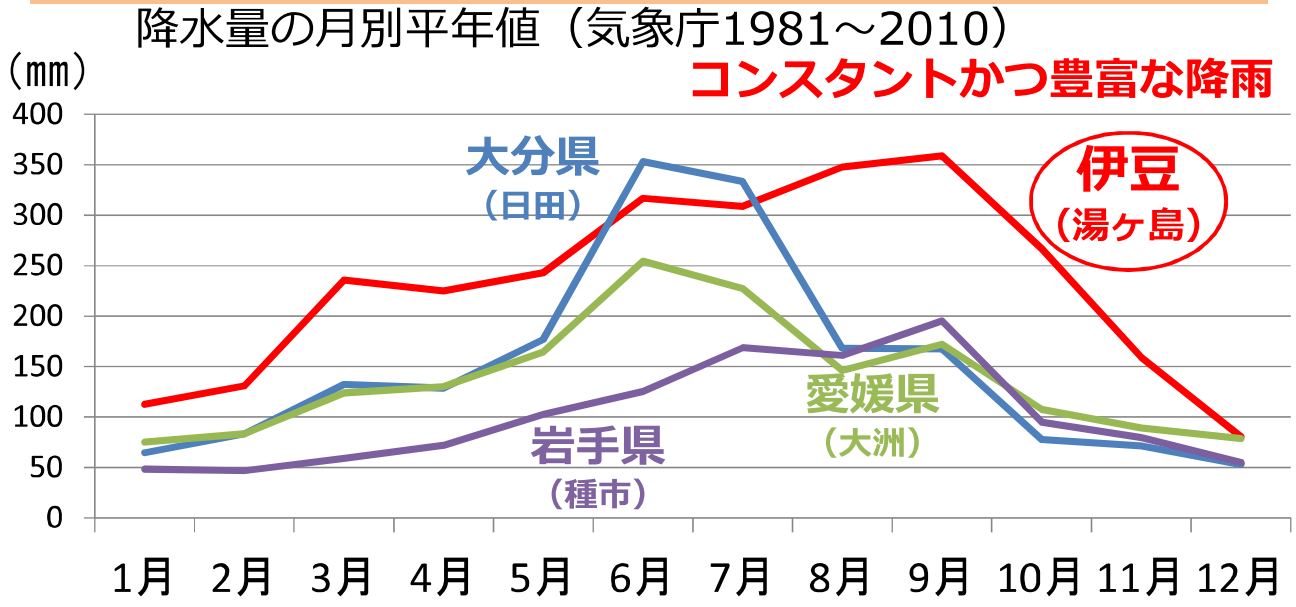
３（２）伊豆地域の地形と気候の特徴



・天城山と海があり、降雨が多い
・季節ごとの気温の変化が少ない

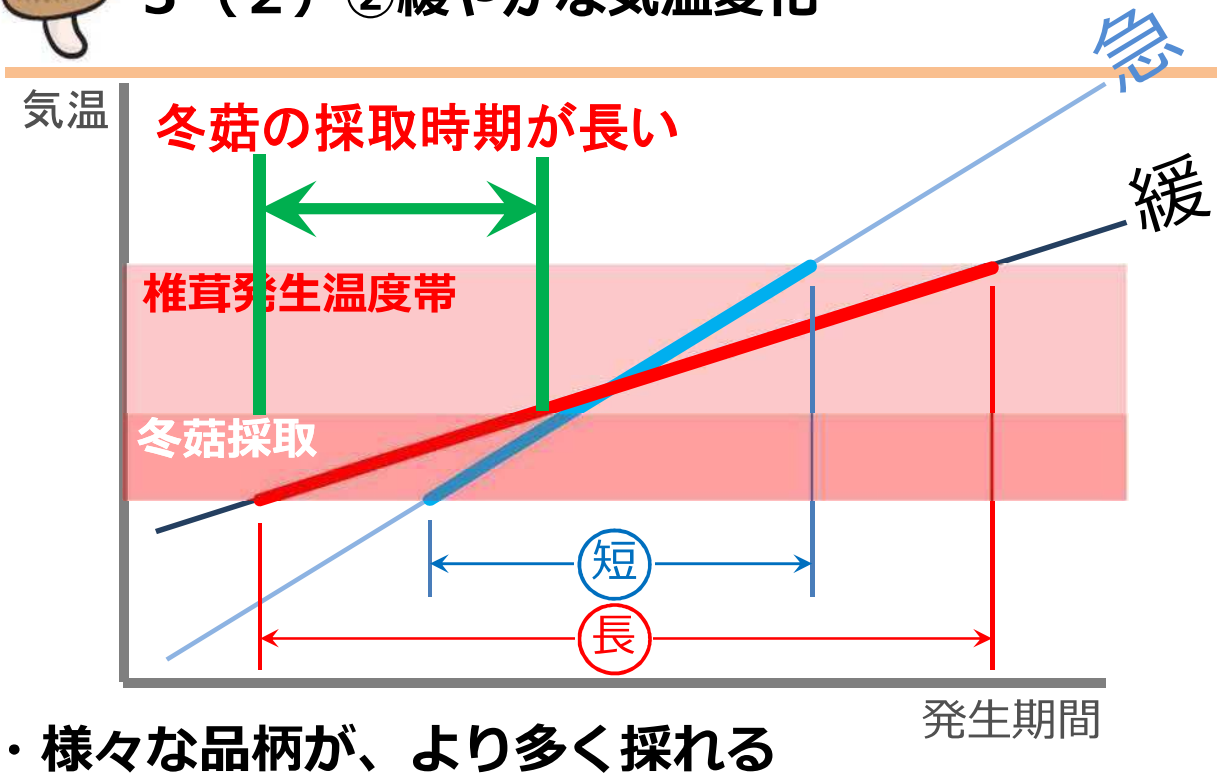
14

3（2）①豊富な降雨量



・ほだ木の乾燥リスクが低く、菌糸の生育に有利
・椎茸の発生・生育に必要な十分な水分供給

3（2）②緩やかな気温変化



・様々な品柄が、より多く採れる
・傘が開かず成長する低気温期間が長い ⇒ 肉厚冬茹

3（3）しいたけ栽培発祥の地

・しいたけを育て始めたのは、およそ300年前。
・現在の伊豆市で石渡清助（いしわた せいすけ）さんが、日本で初めてしいたけを育てたと言われてい



石渡清助さんのお墓



石渡秀雄（明治時代・清助の子孫）

ホダ木を組み上げる方法を考案し現在でも全国に普及している

3（4）伊豆地域の乾しいたけは高品質

伊豆地域の原木しいたけ（乾しいたけ）は、全国品評会でも上位の賞を数多く受賞するなど高品質



特に品質の高いものは「清助どんこ」として認定しブランド化



石渡清助さんをモデルにした「清助どんこ」イラスト



４.しいたけ生産の課題

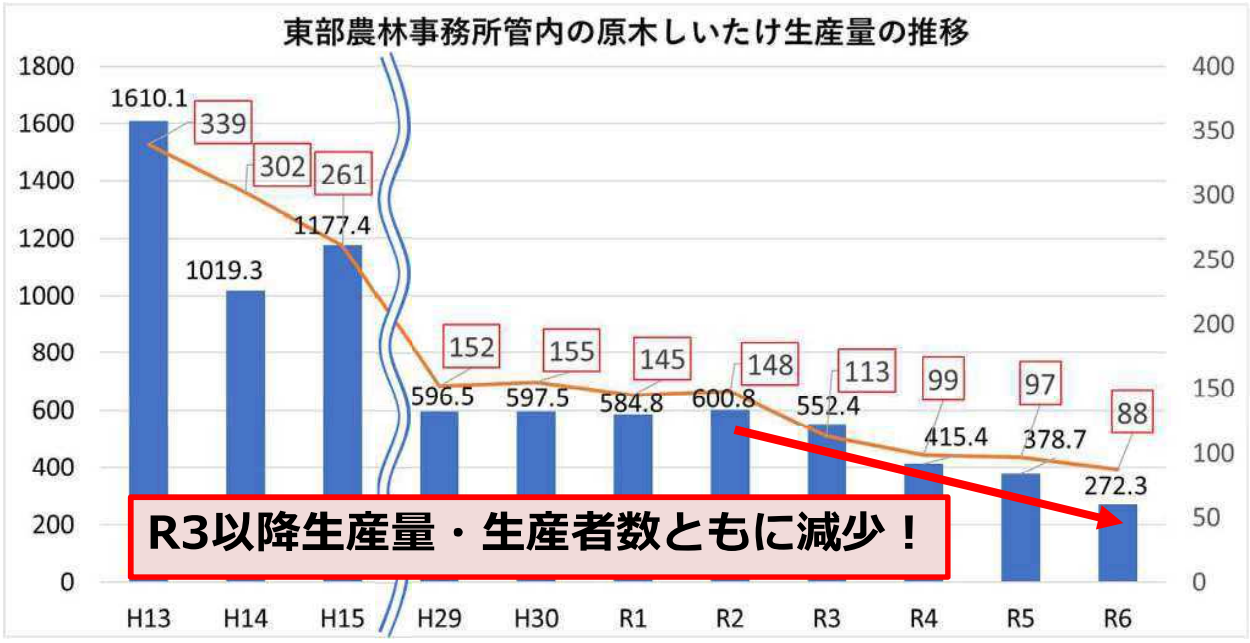
（１）伊豆地域のしいたけ生産の現状
（２）伊豆地域のしいたけ生産の課題





４（１）伊豆地域のしいたけ生産の現状

単位：t　　単位：戸



静岡県森林・林業統計要覧（令和7年度版）より引用

4（2）伊豆地域のしいたけ生産の課題

気候変動の影響
・猛暑、少雨

東日本大震災の
風評被害

生産量減

生産者数減

生産者の高齢化
・70代以上の割合6割

新規参入が少ない
・収穫まで2年間無収入
・初期投資費用が高額

21

5.これまでの取組と結果

- 地域おこし協力隊の参入(伊豆市)
- 補助金による資材購入費の補助（県）
- 品評会や清助どんこブランドの運営支援(県椎協)

- 若手の生産者が育成されている。
- 資材購入費の生産者負担の軽減
- 他地域と比較して、静岡県の高単価が続いている。

- 独立後の機材購入費用が賄えない
- 原木・種駒購入費に対する補助金が終了
- 物価高に単価上昇が追い付かない

22

5（1）取組結果の考察

- 専業の生産で生計を立てていくのは難しい（大規模な生産が必要）
  - まずは小口生産者を主なターゲットに絞る。
- 生産者数の減少により、技術の継承がされないまま、廃業してしまう。
  - 行政を含めた地域全体でしいたけ生産者を育成していく必要がある。

23

6.今後の取組（原木しいたけ生産塾）

対象者：県内で生産活動を行う原木しいたけ生産者等
場　所：伊豆市内
内　容：原木しいたけ生産のための基礎知識の習得

回次	時期	内容
1	9月25日（金）	栽培方法の基礎知識
2	10月21日（水）	チェーンソーの取扱い、原木伐採
3	12月4日（金）	直売所・入札会視察
4	令和9年1月予定	植菌、仮伏せ実習
5	令和9年2月予定	収穫、選別実習

その他（参加者への支援）
・生産資材や安全装備の購入支援
・しいたけ生産技術等支援

24

６.今後の取組

（１）新規参入者支援

・農協等と連携し、他品目の農家の方々が新規参入できる仕組みの検討

（２）生産者との関係強化

・キノコバエ対策の実証結果の普及

・高温に強い品種の情報収集（種菌メーカー等）

・生産者への現状や要望の聞き取り
（生産者大会・ほだ場巡回等）

25

最後に



26

ご清聴ありがとうございました



